

# 「能登の里山里海」スタディ・ツアー

## 笑顔いっぱいなツアー

張 文超

### 一、「母さんの学校食堂」——元気な母ちゃんたちに出会った

3月4日、およそ1時間半のバスツアーで、私たちは、穴水町兜小学校に位置する「母さんの学校食堂」に到着した。校門で、立ち並んでいるのは、暖かい笑顔をしている「母さん」たちだった。「母さんの学校食堂へようこそ」とやさしくて、元気な声で、食堂の初めてのお客である私たちを迎えてくれた。

簡単なあいさつと自己紹介の後、「母さん」たちは食堂が立ち上がる前の話をいろいろと聞かせてくれた。聞いているうちに、地元の人々はお互いに支えあいながら、一緒に地域のためにがんばっていて、絆がとても深いなと切実に感じた。「母さん」たちの思いは地元の人々の支えがあったこそ実現できたと思う。

その後、小学校を一回り見学して、わくわくする昼食の時間になった。

「母さん」たちはおふくろの味を味わってもらいたいという気持ちで、地元産の野菜などを使って、美味しい料理を作ってくれた。その中で、一番美味しいのはやはり初めて食べたタコご飯だと思う。



### 二、「かき養殖見学とお話」——「かき BBQ」楽しかった～

今回のツアーの第二ステーションとして、私たちはかき養殖場に到着した。いい天気だったから、海は格別に穏やかに見え、太陽の光で、海はきらきらと光っていた。このような自然に恵まれているところで、いったいどのようなかきが養殖されているのだろうか



疑問に思いながら、養殖家の河端さんに小船に乗せて、案内してもらった。かきが吊り下げられているところにどんどん近付いているうちに、まるで海の宝を探していくような気持ちでわくわくして、楽しみにしてきた。私は一度も本物のかきを見たことがないので、本物のかきを見せてもらったとき、ほんとに新しい発見ができたように嬉しかった。

かき養殖見学のあと、水産の専門家からかきについての専門的な話を聞きました。例え



ば、かき養殖の仕方とか、いまのかき養殖の問題点など、本当に勉強になったと思う。

約30分ぐらいのかき勉強会の後、ようやくみんなが待ち望んでいる「かきBBQ」が始まった。地元の民家で「かきBBQ」をするのは、日本人にとってもめったにないことなのに、まして私たち留学生たちにとって本当に一期一会のことだと思う。皆で、一緒にかき

を焼き、一緒に食べ、ときどき、地元のお年寄りからの話を聞き、本当に楽しかった。そのかきの美味しさはもう筆舌に尽くしがたいものだと思う。

### 三、「草木染め体験」——マジックのような染め技術

3月5日、ツアーの二日目、草木染めを体験してみた。この染め方は本当に魔法がかけているように見える。ゴムや板で、布の一部分を挟んで、草木で作った顔料にたっぷり漬けるだけで、奇想天外な絵柄を作られる。私たちはまるで、マジシャンのように、自分の手で、布に魔法をかけているようだ。

いいものを仕上げるには、心を込めて、時間をかけてはじめてできると思う。草木染めもまさにそうだと思う。趣向を凝らす絵柄をデザインするには、いろいろな工夫が必要で、また、布にたっぷり染料を付けるため、ごとごと煮込まなければならない。このように、丹念に作るからこそ、最後、ゴムや板などを取り除いて、完成品を見る瞬間は楽しみのマジックの一瞬になると思う。



### 四、「スザーンさんアトリエ訪問」——外国人の力

穏やかに流れている小川に跨る橋を渡り、まだ少し雪が残っている静かな山道を通りぬけ、私たちは、今回のツアーの最後の目的地に着いた。山奥に、静かに佇んでいる一軒のアトリエであった。ここで、輪島塗に



携わっているイギリスの女性が創作活動を続けている。

彼女から、輪島塗のことをいろいろと紹介していただいた。彼女の輪島塗に対する情熱と輪島塗のすばらしさをもっと他の人に知ってもらいたいという切実な願いに本当に感心した。長年、里山に抱かれて、日本の独特の自然を味わいながら、作品を作り、世界に日本の伝統芸術を発信しようとする希望は本当にすばらしいと思う。

また、輪島を世界に発信する事業に取り組む台湾の高さんもいろいろ話してくれた。彼女の話のなかで、一番共鳴を覚えたのは、「伝えなければ、ないのと同じ」という言葉だった。確かに、輪島は自然に恵まれ、いいものがいっぱいあるが、もしそのいいものを伝える発信者がなければ、誰もそれを知ることができない。しかし、高さんのような、情熱で、輪島を心から愛している発信者がいるから、輪島はもっと世界の人に知られると思う。

### 最後の一言

今回の「能登の里山里海」という二日一泊のツアーで、地元の人とコミュニケーションができ、いろいろ体験ができ、本当に楽しかったと思う。行き届いた招待をしてくださった地元の人々に感謝の意を表したい。「本当にありがとうございました」

また、能登、穴水、輪島などは私が作った草木染めの中の同心円のようにどんどん輪を広げて、もっと世界の人々に知られるよう、心から願っている。

